



アメニティ便り 5月号

2021年5月 認定特定非営利活動法人アメニティ2000協会

662-0833 西宮市北昭和町3-20 TEL&FAX 0798-65-4303 携帯 080-3138-4164

Eメール soshisha@f6.dion.ne.jp ホームページ <http://amenity2000.la.coccan.jp/>

室谷邸記念館が完成しました

昨年冬から工事にかかっていた室谷邸記念館が完成しました。写真で見て予想していても、実際の姿を見ると、その迫力におどろきます。旧室谷邸からもたらされた扉、梁、柱などの部材の存在感はすばらしく、これだけでもよくぞ残っていた！と胸があつくなります。

神戸市から旧室谷邸門廊部分の部材を引きうけてくれないかという話が飛び込んできてのが2020年1月でした。

ヴォーリス設計の名邸宅の名残を受け入れるのは喜ばしいことながら、それには大きな関門が三つありました。①国立公園である六甲山荘に新しい建築物を建てられるのか ②部分的にしか残っていない部材を活かしつつ門廊をどう再生するか ③建設費用の確保 でした。

これらをどう解決してきたかは、5月に発行する「アメニティ・レポート2020・室谷邸記念館特集号」に詳しく書かれています。

この建設に当初からかかわってくださったスタッフのなかでも、津枝勝見さんは建築家として設計監理に心を砕いてくださり、角倉起美さんは失われた壁材としてレンガ700枚、床材としてタイル750枚を焼いてくださいました。

そして協会を会員として支え、寄付をしてくださった皆さまのおかげで、文化遺産継承基金として建設資金の一端をまかなうことができました。皆さま、ありがとうございました！



2021年度通常総会

2021年度の総会を次のように開催します。

日時：5月22日(土) 午前10時30分～ 場所：草志舎

このような時期ですので、感染対策を充分にとり行います。協会の活動について語り合う大切な機会です。可能な方はおいでいただけると幸いです。

総会の案内はこのアメニティ便りに同封またはメールでお送りします。

出欠のお返事をお願いいたします。また欠席の方は**かならず委任状**をお送りくださるようお願いいたします。



↑ 昨年の総会風景

新型コロナウイルス対策

4月初めに神戸市やその近隣地域に蔓延防止重点措置がなされました。その後4月下旬に兵庫県に3回目の緊急事態宣言が発令されました。これを受けてヴォーリス六甲山荘は4月17日(土)から5月9日(日)まで臨時休館としました。また例年なら4月下旬に開かれる「和のこもの展」は10月に延期となりました。畑儀文さんの合唱教室も4月はお休みしました。

この記事を書いている現在も感染者数はあまり減っておらず、今後の状況はまったく予断をゆるしません。そのなかでもできる限り活動を続けていきたいと思っています。

皆さまもどうぞ十分お気をつけて、可能なときにご参加いただけますよう、お待ちしております。

文化遺産信託研究会のご報告

4月5日(月)にヴォーリス六甲山荘で2021年度の総会を開催しました。11名が参加し、2020年度の活動報告、収支報告、2021年度の活動計画、予算などの議案が原案どおり承認されました。分科会としてはナショナル・トラスト活動実態調査と、公益活動ファンド研究をテーマにたちあがる、セミナーの開催など、コロナのなかでもできるだけ活動を展開したいと意見が一致しました。

また角倉起美さんのデザインによるロゴマークが採用されました。→

研究会の活動がいよいよ始まります。面白そう！と思われる方はどうぞご参加ください。



ご報告 弥生の茶会 3月6日(土) 草志舎

空模様があやしく、野点ではなく室内で点前をしました。お雛様の前で一般
いただくと春の訪れを実感します。



ご報告 マーマレード作り 3月9日(火) 草志舎

今年も中嶋さん(熊本)の有機の甘夏を使ってマーマレードをつくりました。
皆さんからご寄付いただいた空き瓶につめて40個余りできたのを冷凍保存してあるので、いつでもお届けできます。
ご希望の方はご連絡ください。

ご報告 ヴォーリズ六甲山荘スタッフ研修 3月20日(土・祝)

冬ごもりを終えて公開をひかえ、スタッフ研修をしました。安永順一さんの指導
で、館内はもちろんきょうたいの森と室谷邸記念館もまわり、一段と魅力的になっ
た山荘の姿を目にやきつけました。



ご報告 ヴォーリズ六甲山荘大掃除&公開準備 3月27日(土)

館内の大掃除をし、片づけていた家具を元にもどし、公開準備をととのえました。
午後には室谷邸記念館の内壁に柿渋を塗る作業をおこないました。3回ほど重ね塗りをして、壁の色がおちついたよう
です。

今年は六甲山荘でベンガラ塗りを!

六甲山荘の外壁はベンガラを塗って
います。今年の夏にその塗り替えをします。

作業手順としては、壁の水洗い→ベン
ガラ塗り→塗り込み2回です。むずかしい
作業ではありませんが、なにしろ壁面が
広いので、大勢の人手が必要です。

夏前になったら作業日のご案内をさし
あげますので、ぜひ一日でもご参加くだ
さい。



前回(2016年)のベンガラ塗り

募金のご報告 2月~3月

2月~3月に次の方々から募金をいただき
ました。ありがとうございました。

(指名省略)

***文化遺産継承基金**

《2月、3月合計 514,721円

2020年度累計 1,981,930円》

室谷邸記念館の仕上げ作業あれこれ



スタッフが作った階段



標札「室谷邸記念館」を貼る



スタッフで柿渋を塗る



展示コーナーの照明器具とパネル

アメニティ 2000 協会は国際ナショナル・トラスト機構 International National Trust Organisation(INTO)に所属しています。隔年に開催される世界大会ですが、今年はオンラインで開かれ、英国在住のハナ・イスタムさん(会員)が参加してくれました。彼女から届いた参加記を掲載いたします。

INTO オンライン世界大会 2021 「INTO は文化遺産の世界的コミュニティに活力を与える」に参加して

ハナ・イスタム

去年は新型コロナウイルスの世界的な感染によって、日本でも海外でも、人との出会いが大変困難な年であった。アメニティ 2000 協会にとっても、プロパティにボランティア・スタッフや来場者を迎えるという日常が「日常」ではなくなってしまった。同時に世界に広がるナショナルトラスト団体のネットワークの仲間と連携をとることもほとんど不可能に思われた。



アメニティ 2000 協会は国際的な連携に関心がたく、INTO の会員となっている。INTO はこれまでは会員が集まって世界大会を開いてきたが、2021 年は人と人との接触を避けるという制約にあわせて、バーチャルで開催することにした。INTO は 65 の国の 85 のナショナルトラスト団体がメンバーとなっている。4 月 20 日から 22 日にかけてこれらのメンバーがオンラインで、去年の苦難をどうのりこえてきたか、ナショナル・トラストの働きを未来にむけてどう強化していくかを語り合った。

3 日間にわたってさまざまなオンライン分科会が開かれた。気候変動がプロパティに与える影響、コミュニティ指導の保存活動のケーススタディ、「ソーシャルディスタンス」という制限のなかでボランティアが効率よく活動するための工夫、などなど。なかでも面白かったのはプロパティにおいて「ビジティア visitering」の存在が大きくなっているという報告だった。ビジティアとはビジターとボランティアを合わせた造語で、ビジター(来場者)にボランティアとして参加してもらうという仕組みである。本来プロパティ維持管理にあたっているボランティアの確保がむずかしくなっている現在、維持作業の人手が得られるというメリットがある。一方ビジターにとっても簡単な作業を経験することで、単なる見学ではない楽しく印象に残る滞在になるという。予約も必要なく、たとえば庭仕事や木工作業などを行うようである。英国ナショナル・トラストでは以前からこのビジティア制度が多くのプロパティで行われていた。英国ヘレフォードシャーのクロフト城からは、ボランティアも来場者も確保に不安がある現在では、このビジティア方式は大きな役割をはたしていると報告があった。

去年の新型コロナというパンデミックには INTO の所属団体はどれも大きな影響を受けた。プロパティを閉鎖したり、スタッフも来場者も減少した。しかしこれを好機ととらえ、これまで抱えていた問題への新しいアプローチを模索しはじめた団体も多いという。たとえばプロパティをめぐるバーチャル・ツアーの実施、ネットでの発信を質量ともに増やす、建物周辺の庭園や自然を手入れする屋外での活動の企画をふやす、などである。

現在はまだまだ多くの人が孤立や不安な思いをかかえているけれど、世界中の人々が同じ思いをもっているということを、INTO の大会であらためて実感した。プロパティの公開が中止され、活動が休止となっても、新たな道を見つけようとする気概がたしかに存在する。昨年以降人々は長期間ステイホームを強いられ、社会の動きに大きな不安を感じている。しかしせわしない暮らしぶりの足をとめ、自然と共にあるシンプルな生き方を楽しむようになったことは、大きな収穫ではないだろうか。アメニティ 2000 協会をふくめナショナルトラスト思想を基盤とする団体にとって、これは大きな機会ともなるだろう。すなわち美しい場所への道しるべを示し、人と自然との橋渡しをすることで、これからの再生の時代の最前線となりえるのだ。